

岐阜大流域圏科学研究中心 廣岡 佳弥子准教授

研究から

けで1人1日200㍑出前に浄化を行うこと

以上が使われ、これにが必要となるのです。エネルギーを有していま

加えて各種工場、農水が、浄化処理に大量のす。そのため、理論的

産業、商業など産業活動が必要となには、廃水を浄化する

エネルギーが必要となに発電を行い、電力を得るというものです。

に含まれる主要な汚濁物質である有機物は、潜在的に大きな化学工場の電子を生産する際に電子を分解する特殊な微生物を利用し、廃水の浄化と同時に発電を行い、電力を得るというものです。

微生物使い廃水浄化、発電

消費されています。

これらの水は消費に伴って汚染され、廃水となりますが、そのま

るエネルギーを回収して利用する」ことが可能でです。

そこで私の研究グループでは、微生物燃料電池という新しい技術

私たちの現代の生活を維持するためには水の消費が不可欠です。ま河川や湖沼などに排水されます。そのため排

その一方で、廃水中

出されると水環境を汚します。

ほど大きくありませんが、浄化能力に関する

は従来の浄化技術にて匹敵する水準にまで高まりました。現在、こ

の技術を一日も早く実用化することを目指し、研究を進めています。